

会議記録(1)

会議名称	北本市次世代育成支援対策地域協議会（第2回）	
開会及び閉会日時	平成22年11月15日（月） 午後1時10分～午後2時30分	
開催場所	文化センター 第1研修室	
議長氏名	田澤あけみ	
出席委員(者)氏名	田澤あけみ、近藤みどり、村田和香子、田口景子、佐藤洸、新井利民、大島陽子、広瀬正幸、若山清和、木村嶺子、町田哲夫、有田めぐみ、中村菜摘、蜂谷学	
欠席委員(者)氏名	鈴木礼子、下里晴朗、小山田栄	
説明者の職氏名	課長 加藤啓一 主幹 小暮秀行 主査 南 豊	
事務局職員職氏名	課長 加藤啓一 主幹 小暮秀行 主査 南 豊	
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 次世代育成支援行動計画【平成21年度事業進捗状況報告書】について (2) 子育て支援に関する主要施策について (3) その他 3 閉会	
配布資料	・会議次第 ・次世代育成支援行動計画【平成21年度事業進捗状況報告書】（案）（資料1） ・中核保育所・子育て支援センター基本設計概要（資料2）	

会議記録(2)

発言者	発言内容・決定事項
	1 開会 2 議題
事務局	これより、議事に入らせていただきます。これ以降の議事の進行につきましては、協議会設置要綱第 6 条により会長にお願いしたいと存じます。
議長	議題の（１）「次世代育成支援行動計画【平成 21 年度事業進捗状況報告書】（案）」について、事務局より説明を求めます。
事務局	【次世代育成支援行動計画「平成 21 年度事業進捗状況報告書」（案）について説明】
委員	5～6 頁の「総括表」について、集計された上で、何か特徴というのがありますか。
事務局	事業の進捗については、総論としては、ソフト事業については概ね順調であります。ハード事業については、大きな予算を伴う事業もあり進捗が遅れがちという特徴があるのではないかと思います。例えば、33 頁の「児童福祉施設の整備」についても、児童館の建設はハード事業でもあり、「B」という評価になっています。
委員	「保育サービスの充実」の分野について、総括表でみると、どちらかというに進捗状況があまり良くありませんが、この「保育サービス」については、ソフト事業としてとらえればいいのでしょうか。ハード事業としてとらえればいいのでしょうか。
事務局	「保育サービスの充実」の分野については、43 頁あたりに個別の事業が記載されていますが、「保育所改築の検討」と「休日保育」が「C」となっています。

	「保育所改築」については、現在、老朽化した東保育所の建て替えということで、本宿 7 丁目に中核保育所の建設を計画しています。本年度、土地造成に着手し、平成 24 年度に開所予定です。 多様化する保育ニーズの中から、新しく建設する中核保育所においては、2 つの新たな保育事業を取り入れるよう検討しています。「休日保育事業」についてはまだですが、今後の保護者等のニーズをみながら検討していきたいと考えています。 現状では、このようなハード的な事情もあることから、ご覧のような評価となっています。
委員	いくつか質問があります。 1 頁で、「担当課による自己評価」と書かれていますが、評価は、数をこなしたという「量」的な評価だけなのでしょうか。事業の「質」的な部分についても評価として検討されているのでしょうか。 個別事業の実施状況については、「執行予算」も記載されていると事業の概要がよりわかりやすくなると思いますがいかがでしょうか。 57 頁に「人財情報バンク」とありますが、この文字は「財」で良いのですか。
事務局	事業実績は、前期計画の最終年度である平成 21 年度の実施状況をとらえています。各部署における取組みの進捗についての自己評価を記載していますが、質的な面も含んでいるという理解でお願いします。 予算については、ソフト的な事業もあり、厳密に数字として表わしづらいものもありますが、単年度予算として明確にできるものについては、今後、できる限り示していく方向で検討します。 57 頁の文字は、事業名称としてあえて「財」という字を使っています。
委員	25 頁の「年齢別保育の充実」というところで、「0 歳児 181 人・・・等」の記載がありますが、この数字は何を元に出したのですか。 おなじ頁の「保育所・幼稚園及び小学校との交流促進」の保育所とは、公立のみでしょうか。民間も含んでいるのでしょうか。 「乳児保育の充実」については、「A」という評価をされていますが、0 歳の乳児をもつ母親は皆さん育児休業を延ばして対応しており、実態としては潜在的な待機児童は多いのではないかと思います。市としては、保育所を選らばなければ入所できると説明

事務局	をされていますが、きょうだいが別々の保育園になったり、送迎が不便になるため、実際には育休を延ばして対応している人も多いです。確かに、民間で 0 歳児を受け入れています、できれば全保育所で 0 歳児保育をやってもらいたいという希望があります。 43 頁の「保育所改築の検討」ですが、中核保育所が東保育所の建て替えという形で進んでいるので、老朽化した施設としては、次は「中央」、その次は「栄」「深井」が残っていると思います。「中央」の建て替えは、計画としてあがっていると聞いていますが、残りの 2 か所については、建て替えを予定されているのでしょうか。 「年齢別保育」の 0 歳児 181 人等の内訳ですが、公立 4 保育所の各月の初日に在籍する児童の 1 年分の合計です。 「保育所・幼稚園及び小学校との交流促進」については、民間・公立両方含めた事業です。 「乳児保育」については、0 歳児の保育のニーズが、実際に子育てをされている方から多いというのは市としても認識しています。しかし、一方では、保育所を選ばなければ入れるという状況もあり、待機児童については、本年 4 月 1 日現在 4 人となっています。受け入れている民間の保育所も「歩行ができる状態になってから」という条件を付している園もあり、諸課題があることは承知していますが、乳児保育を事業として行っていることを総合的に勘案して「A」という評価としました。 公立保育所の改築については、まず東保育所の建て替えということで中核保育所を建設し、建設期間中に中央保育所の児童に東保育所に移ってもらい、その間に、中央保育所の建て替えを予定しています。
委員	「年齢別保育」の数値については、たとえば 0 歳児については「181 人」となっていますが、公立保育所の 0 歳児定員は「12 人」です。実績は、定員の一年分（12 人×12 カ月）より多くなっていますが、理由を教えてください。 乳児保育は、入園に伴う条件等があり、保護者として苦慮している状況がある中、「A」という評価は納得いかないと思います。 東、中央については、建て替え計画があるというのは理解できましたが、残りの 2 園（栄、深井）については、今のところ何もないという状態でしょうか。築 40 年近くたっており、耐震の見地

	から大変心配です。
事務局	0 歳児保育の実績が、定員より多い理由については、担当に確認して後ほど報告させていただきます。 乳児保育の充実については、民間保育所 2 園で実施しているという観点から「A」という評価にさせていただいたのでご了承いただければと思います。 保育所の建て替えについては、現在、「東」と「中央」については、計画が具体的になっていますが、残りの 2 園については予定はありません。
委員	以前、「栄保育所はコンクリートで整備されているので、耐震上安全です。」という説明が市からあったので理解できますが、「深井」については相当老朽化しており、建て替えはともかくとしても耐震化の改築は、今後ぜひ検討してもらいたいです。
委員	7 頁と 50 頁の「病後児保育」の字について、「時」が正しいのか、「児」が正しいのでしょうか。
事務局	確認して、あらためて報告させていただきます。
委員	進捗区分の評価方法に問題があるのではないのでしょうか。「自己評価」というのは、「未実施」でさえなければ「A」と評価しがちです。到達度を図る指標として、誰が見ても納得できる形にはなりにくいのではないのでしょうか。 例えば、9 頁の「第一子訪問」ですが、実績のところ「実人数」と「述べ人数」だけが記載されていて、実際に北本市に在住する第一子が網羅されているのかという視点が抜けています。同様に、「1 歳 6 か月児事後相談」についても、実績は対象児童 128 人に対して参加が 54 人と半分以下です。これで良いのでしょうか。進捗区分（評価）については、今日の発言や意見を踏まえて、事務局として変えていく可能性はありますか。
事務局	たしかに、分母と分子がわからないと評価のしようがないのではないかという指摘は、もっともです。本年度の報告書は、昨年度までの報告書より細かな部分を記載いたしました。次年度の報告書については、本日のご提案を踏まえて、より事業の実施状況が理解しやすいものとなるよう検討していきたいと思います。

委員	また、本日、評価について「A」ではいかがなものかという指摘をいただいたものについては、再度事業課とも協議して、あらためて委員の皆様にお示しさせていただきます。 追加で、個別の評価についてですが、33 頁の「児童福祉施設の整備」については、課内で検討されて「B」という評価はどうかと思います。 37 頁の「子ども広場」については、「活用する」としてはありますが、どのように活用しているのか教えてください。 51 頁の「病後児保育」について、現在、まだ実施していないという状況において、「A」というのはどうかと思います。 56 頁の「子育て支援ネットワークづくり」について、参加機関 31 機関とありますがどのような事業なのか説明してください。
議長	それでは、個別事業の評価については、事務局からもあらためて検討するという発言もありましたので、後ほど検討していただくとして。残りの部分、「子ども広場」と「子育て支援ネットワーク」について説明をお願いします。
事務局	「子ども広場」については、土地所有者のご協力をいただいて、市内の各地に設置されています。現在は、8 か所あり、地域の子どもたちの遊び場や、お年寄りも集えるような場として活用されていると聞いています。手元に詳しい事業資料がないので、後ほど事業担当課にも確認した上で、詳しい資料をお送りします。 「子育て支援ネットワーク」については、市内の概ね未就学児に係る機関（こども課、健康づくり課、保育所・園、幼稚園、子育てサークル等）が、担当者同士いつでもお互いに連絡が取り合えるように、「ネットワーク名簿」をつくり毎年度更新しています。
委員	5～6 頁の「総括表」ですが、各分野によって事業数に差があり、分野に占める 1 事業あたりの比率が違います。あえて、「割合」を示す必要があるのでしょうか。割合を示すと、その割合だけみて、安易に「遅れている」とか「進んでいる」という印象を与えかねないと思います。事業数だけで十分ではないでしょうか。
事務局	「割合」については、委員からのご指摘も踏まえ、来年度の報告書では、より見やすくわかりやすい報告書となるように検討していきます。

委員	総括表にある「概ね順調」とか「遅れている」というのは、分類した基準というものはあるのでしょうか。
事務局	具体的な基準というものは特にありません。各事業を所掌する担当課から事業の進捗としてあがってきた評価を積み上げたものです。進捗を分類した基準は、特に県や国の取り決めということではありません。
議長	評価のやり方や基準については、本日、委員からも多くの意見をいただいたと思うので、本年度または来年度の課題として検討してもらえればと思います。 続いて、議題の（２）子育てに関する主要施策について事務局から説明をお願いします。
事務局	【子育てに関する主要施策について説明】
委員	児童館についてですが、市内には公民館やコミュニティセンター等がありますが、そういう施設の中に児童館を設けられないのでしょうか。また、小学校にも空き教室があると聞きますが、児童館として活用できないのでしょうか。
事務局	児童館については、今月末に検討協議会が行われますので、意見として承らせていただき、あらためて提案を含めまして検討させていただきます。 学校の空き教室については、児童館としては検討されていません。ちなみに、本年度「学童保育室」として３小学校の余裕教室を整備いたします。
委員	児童福祉施設については、国では施設の最低基準を各自治体におろそうという議論が行われているところです。また、1948年に作られた現行の基準では、子どもたちに合わないのではないかと議論もあります。新しく作られる中核保育所というのは、基準という意味においては端境期ですが、基準についてどのようにお考えでしょうか。
事務局	現状の最低基準をベースに建設を行います。

議長	続きまして、議題の（３）「その他」について。事務局から何かありますか。
事務局	昨年度の会議の時にもご説明しましたが、北本市においては、基本的にこのような会議は公開を原則としており、会議の記録についても公開することになっています。 したがいまして、この協議会の会議の記録についても、本年度から HP で公開することにさせていただきたいと考えています。後日、会議録を作成しましたら会長に確認していただき、公開をしたいと考えています。
議長	本日指摘のあった評価等の直しの部分については、どのように対応される予定ですか。
事務局	本日、疑義やご意見をいただいた部分については、あらためて事業課と協議して検討させていただき、報告書を作りなおしまして、各委員に送付させていただきますので、確認していただきたいと思います。
議長	わかりました。 それでは、本日の議題については、以上で終わりましたので、議事の進行を事務局に戻します。
事務局	6 閉会 田澤会長ありがとうございました。また委員の皆様ありがとうございました。 以上をもちまして、平成２２年度次世代育成支援対策地域協議会の第２回会議を閉会いたします。
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。 2010年12月21日 委員長(会長) 田澤 あけみ	